

栗原の稲作通信

第7号 令和8年8月28日

宮城県栗原農業改良普及センター
宮城県米づくり推進栗原地方本部
電話番号 0228-22-9404

○今後の栽培管理のポイント

1. 本年の栗原管内の出穂期は8月4日で、平年（7/31）より4日遅くなりました。
2. 今後、過去3年間（令和5～7年）の平均気温と同様の気象経過で推移した場合、8月4日に出穂を迎えた中生品種の刈取適期は、9月11日頃から9月17日頃と予想されます。
3. ほ場ごとに籾の熟色等をよく観察して刈取適期を判定し、刈遅れに注意しましょう。

1. 刈取適期の判定

○刈遅れによる品質低下を防ぐため、出穂後の積算平均気温とともに、**籾熟色を確認**して刈取を行いましょう。

（1）出穂後積算平均気温からみた刈取適期の目安

○出穂後の積算平均気温による刈取適期の目安は、「ひとめぼれ」で940℃～1,100℃です。

積算平均気温が1,100℃を超過すると、食味・品質が低下するおそれがあるので、刈取適期の目安（表1）を参考に、適期刈取を行いましょう。

○倒伏したほ場では穂発芽による品質低下が起きやすいので、刈取早限になったら直ちに刈りましょう。

表1 出穂後積算平均気温から見た刈取適期の予想範囲（ひとめぼれ）

目安となる積算気温 （ひとめぼれ）		出 穂 期					
		7/29	8/1	8/4	8/7	8/10	8/13
刈取早限	940℃	9/6	9/9	9/11	9/14	9/17	9/21
刈取適期	1,000℃	9/8	9/11	9/14	9/17	9/20	9/24
刈取晚限	1,100℃	9/11	9/14	9/17	9/20	9/25	9/28

注1：築館アメダスの平均気温データを使用

注2：8/23まで実況値、8/24以降は過去3年間（令和5～7年）の平均値を使用して算出

表2 品種別の刈取適期となる出穂後の積算平均気温

品種等の区分	刈取適期となる出穂後の積算平均気温
ひとめぼれ	940℃～1,100℃
ササニシキ	1,000℃前後
だて正夢	1,000℃前後
金のいぶき	1,100℃前後
つや姫	1,000℃～1,200℃

注：つや姫は出穂後1,200℃を超すと茶米の発生が多くなるため、刈遅れに注意が必要です。

（2）籾熟色による収穫期の予測判定

○「ひとめぼれ」では平均的穂数株（枝梗数8）の中位二次枝梗籾の熟色を観察することにより、成熟段階を判定でき、刈取適期を予測できます。

成熟段階①：第1位籾の黄化開始（籾黄化判定開始）

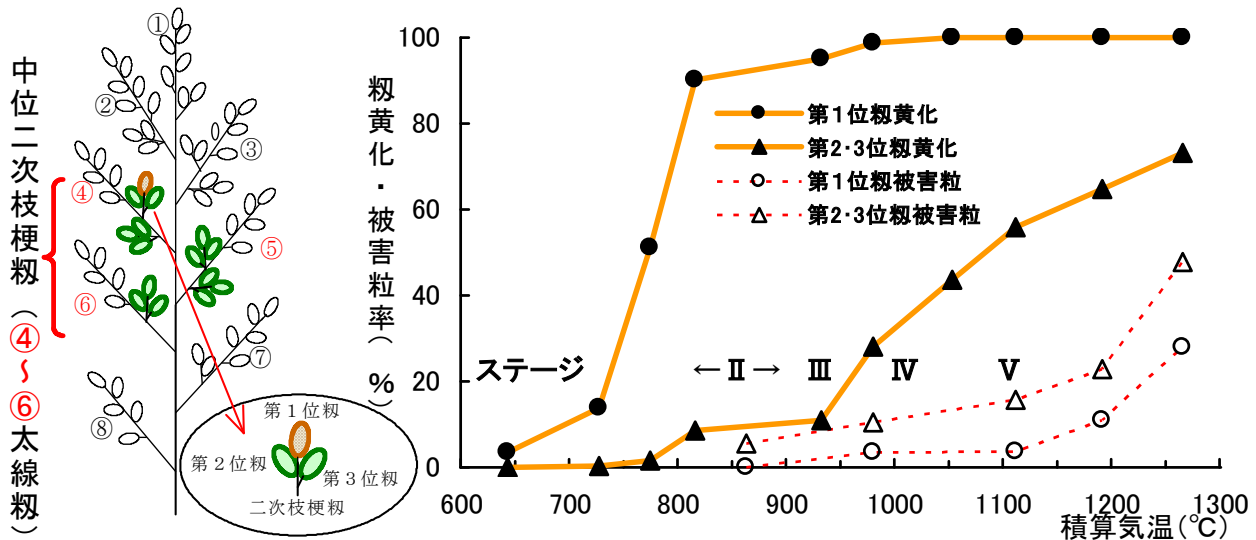
成熟段階②：第1位籾がほぼ黄化（90%）（7日以内で刈取早限）

成熟段階③：第1位籾が殆ど黄化し（95%）、第2、3位籾が黄化開始（刈取早限）

成熟段階④：第1位籾の黄化100%、第2、3位籾が30%黄化（刈取適期）

成熟段階⑤：第2、3位籾が50%以上黄化（刈取晩限）

「刈取適期」



（成熟ステージⅠイメージ図）

図1 積算温度と穂の中位二次枝梗籾黄化率の推移

○実際にはほ場ごとに確認し、籾の80～90%程度が完全に成熟して黄色になり、穂軸が先端から約1/3程度黄変した時が成熟期となります。

○今後の水管理 **落水時期の目安は「出穂後30～40日頃」**

- ・早期落水は未熟粒増加や千粒重低下等、品質・収量を大きく低下させます。落水時期は出穂後30～40日以降を目安としましょう。

2. 良食味・高品質米に仕上げる収穫、乾燥調製

（1）収穫作業

- コンバイン収穫では籾水分が高いと損傷が多くなることから、籾水分25%以下を目標に刈取作業を行いましょう。
- 複数品種の刈取を行う場合、品種が変わる際には十分な清掃を行い、機械内における異品種の混入を未然に防ぐよう注意しましょう。

（2）乾燥・調製作業

- 収穫した生籾を放置すると発熱して変質米の原因となることから、刈取後は速やかに乾燥機に張り込み、送風しましょう。
- 倒伏した稲や未熟粒が多い稲等を火力乾燥する場合、二段乾燥（籾水分が18%程度になったら火力乾燥を一時中断し、一定時間の通風循環後に仕上げ乾燥）を行い、水分ムラや胴割粒の発生を抑えましょう。
- 正確な水分測定のためには、玄米のサンプルから未熟粒を取り除いて測定しましょう。また、こまめに水分を測定し、過乾燥を防止しましょう。仕上がり玄米水分は14.5%～15.0%が目標です。
- 籾摺は肌ずれ防止のため、籾の温度を室温まで下げてから行いましょう。また、ロール式籾摺機の場合

- 合は、粳（品種）に見合った適正なロール間隔に調整しましょう。
- 可能であれば色彩選別機を使用しましょう。
- 異品種の混入を未然に防ぐため、品種が変わる際には機械類の清掃を徹底しましょう。

（３）共同施設の利用

- 大規模共同乾燥調製施設（カントリーエレベーター等）を積極的に活用し、品質の向上と均一化に努めましょう。

.....

令和8年秋の農作業安全確認 実施期間 9月1日～11月30日

近年、様々な農業機械の普及、農業従事者の高齢化などに伴い、機械操作のミスや油断、慣れによる不注意な作業が重大事故につながるケースが後を絶ちません。農作業事故を防ぐための安全な取組については、「農作業安全情報センター」のホームページでご確認いただけます。

.....